

本年もよろしく申し上げます

一県平和委員会第3回常任理事会報告一
運動発展の原動力をみんなで創り出そう

秋の運動のまとめと来春の運動について、12月22日第3回常任理事会（12名参加）が開かれました。

<秋の取り組み>

改憲勢力が勢いづく情勢で県民に訴える私たちの運動は、力量の限界はあるとしても年1回の駅頭・地域宣伝や宣伝カーの取り組みでは不十分です。そのために、現在の組織力はどの位で今後発展的前進を勝ちとって行くにはいかなる方策が必要なのか。今回の常任理事会を皮切りに充分時間をかけて全体的に話し合っていくために以下の3点を提起しました。県民への宣伝力を高める抜本的対応。各平和委員会・平和の会の独自活動の強化。運動の基礎体力・新たな組織力の創造。

話し合いでは、自前の宣伝カーとその運用方法・教育委員会や自治体との日頃からの折衝・望年会やツアーなど独自の活動を大切に・平和委員会は署名活動が苦手、等々もっと時間をかけて合っていく事を申し合わせました。

<来春の取り組み>

県大会の方針で大きく取り残されているのが仲間づくりです。運動には理屈が必要です。しかし理屈どうりいかなのも運動です。どうしても理屈以前の雰囲気・気持ちの一致が必要です。その典型が仲間づくりです。

実増100名をどう実現するか。各平和委員会の実情に照らして1~2名・3~4名・5名以上と無理のない目標を掲げてもらう。1月の理事会でさらに意志統一して4月の県大会に向けて取り組むことを確認しました（以上）

07年こそは平和勢力の総結集を

県平和委員会代表理事 水野 稔一郎

昨年は一年を通して、米軍再編と基地問題で全国に激震が走りました。ここ茨城県も例外ではなく、一昨年末から実行委員会を結成し、「米軍機くるな」県決起集会の成功、水戸をはじめ各地域での五・三集会の開催、「憲法九条は平和への道しるべ」県平和委員会、及び教育基本法改悪反対の新聞意見広告（茨高教組）など、さまざまな取り組みを行ない一定の成果を上げることができました。

ところが、地域や取り組み団体がその都度、独自性をもっていることから全県的な発展に至っていません。

真の平和を希求する人々は、世界で幾十億人もいます。そ

ういった人々の願いを実現するには、団結してたたかうことが最優先されるべき手法だと思います。既存の組織・団体が平和の一点で共同するときには、思想信条、特定政党支持、宗教の違いなど、あれこれの原則論を振りかざしては、たたかひの輪を一回り二回りと広げることが出来ないのではないのでしょうか。現在継続審議となっている改憲手続き法案を早々に成立させ、そう遠くない時期に憲法を改正するというスケジュールに自民・公明党は勿論のこと、民主党までもが改憲姿勢にあります。

07年こそは「数は力」理論よりも実践を先行させ、たたかひの輪を大きくすることで、新たな理論の発展が得られることと思います。

平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川 5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

459
月3回発行
2007.1.5



憲法学集会を開く

石岡地域憲法九条の会 山口 由夫 (文責)

石岡地域憲法九条の会は、8月26日に発会しました。その後、役員会を開き今後の取り組みについて協議しました。その中で、憲法について学習会を開くことを決めましたが、事務局の都合で延び延びとなっていました、やっと12月16日に持つことができました。

講師は、九条の会の代表の山口裕さんをお願いをしました。講師は、自らが学徒出陣をされ、呉で原爆投下を目撃した方で、広島のア鼻地獄を見た方です。

講師は、争い(戦争)の起源から現在に至る戦争の歴史、時代背景について詳細に調べて話をされました。日本は一貫して韓国や中国に対し蔑視政策を取ってきたこと、「チヤンコロ」という造語は福沢諭吉が作ったこと、太平洋戦

争時に水戸から軍関係者が徴用に来て、石岡の運送業のトラックや農耕馬などを全部戦争に動員したこと、銃後の中で、学生たちも援農隊として動員されたことなど具体的に話された。

戦争という行為は、人間の命ばかりでなくありとあらゆる物を総動員して行う非生産的な愚かな行為である。世界の人民は多くの命と非惨な教訓の中から平和の到達として「国際連合憲章」を打ちたて日本国民は「日本国憲法」を誕生させたもので、押し付け論など全くの言いがかりである。また、安倍首相が憲法前文は詫び状門などと言っているが彼が著した「美しい国日本」などは思想に一貫性がなく中学生の作文以下である。私たちは、憲法9条を宝として押し広めながら闘うことが先の戦争で犠牲になられた方への恩返しですと結ばれました。講師の「憲法九条に思う」を熟読下さい。

イラク戦争支持撤回米共和党議員「犯罪であるかも」 一方茨城県知事は

12月7日、アメリカのイラク侵略戦争に協力して帰国した県内自衛隊の県庁訪問に対し「誇りに思う」と言って労をねぎらった。

県内からイラクへの自衛隊派遣は117名で、現在も4人がクエートで活動している。

(大宮平和の会平和ニュース 48号より転載)

平和望年会在盛會に



恒例の「平和望年会」を12月17日に開催しました。水戸では、12月上旬まで多忙な時期だったので、準備の相談をしたのは開催日の僅か4日前、それからの取り組みでしたが、それでも28の方が参加してくれました。これは「望年会」が定着してきていることでもあります。もう一つは、国会で「教育基本法」の改悪や、防衛庁の「省」への昇格が強行された情勢の反映でもあったと思います。

ですから、強行された「悪法」の実施を許さない運動の重要性が強調されたのをはじめ、戦争体験や戦争責任問題など、20人近い方から多彩な発言がありました。また、シベリヤ抑留者の貴重な資料の展示、女性会員の手作りの料理もあって、楽しく交流しながら来年も頑張ろうと確認し合いました。(松原)

「憲法九条に思う」

石岡地域憲法九条の会代表 山口 裕

憲法九条のルーツ不戦條約(戦争放棄に関する條約)は、世界恒久平和を目指して敷かれたルールである。

そのルールは、たび重なる戦火に埋もれて、放置されていた。憲法九条は、そのルールを掘り出して乗せた理想の車体である。

このルールをみんなで、全面掘り出して、世界の国々共々、理想の平和憲法条項の車体を載せて連結し、国際平和列車を編成し、良き未来を目指すのではないか。

日本国憲法九条は、その機関車にならなければならないのだ。

野蛮人の戦争にはルールがあった。文明人の戦争にはルールが失われた。

文明人の戦争では、発達した科学技術の兵器で、効率的な殺人と徹底的な破壊を勝敗の手段とし、より野蛮的になった。

剣と楯の戦いでは、流血に罪悪感を覚えるが、押しボタンの一押しで一挙に生ずる修羅の巷、阿鼻地獄には、罪悪感を覚えない。その押しした人は、誉め称えられる。人類は文明が進むほど、神から遠ざかるのか。

宗教は信仰は、精神安寧、人間救済の観念世界の筈だが、異端者・異教徒に対しては、反面邪教化する現実もある。

戦いを好み、殺戮と破壊に勇み立つものたちよ。お前たちは神に額づくことは許されないのだ。

「人間とは、悲しい動物なのだ」



平和委員会(平和の会)に入会して、草の根平和運動に参加しませんか!

事務局便

今年から藤田稜威雄さんが手伝いに来てくれる。彼は日立関連企業を定年退職し、何もわからないけど平和運動やりたいと。「何でもやります」私の手帳は手伝い日を最優先にするので真っ白です」と昨年事務局に来た時話していた。事務局の戦力アップと若干の若返りが出来る。一月五日仕事始めに、さやかな歓迎式と合わせて新年会を事務局で開く。皆さん参加しませんか?今年もよろしく (ま)